

くまざさ

新らしい百年へ次の一歩

失敗や回り道を人生の糧として

釧路湖陵高校 新校長 橋本 達也

この春、第35代校長として湖陵高校に着任された橋本達也先生は、昭和34(1959)年の生まれ、十勝の陸別町出身です。父親も教員だったため、中学校時代は頻繁に転校を繰り返したそうですが、高校は帯広市の柏葉高校を卒業後、教員を養成する早稲田大学教育学部へと進学しました。

「でも大学に入ってから、教員になる気持ちは無くなってしまったんですよね」と話すように、大学ではタモリ等を輩出したことで知られる、有名な「モダンジャズ研究会」に籍を置いたことから、卒業後は在学当時からアルバイトをしていたというジャズ喫茶のマスターに勧められて、プロのジャズトランペッターのマネージャーになったそうです。

「仕事の内容は芸能プロダクションとの打ち合わせやレコード会社との交渉、コンサートツアーの企画などでしたけど、一年半ほどでクビになっちゃいました」と笑う橋本校長。ここでは本来の「教員の道」へと戻るのかと思いきや、次に就いた仕事はなんと建設会社の作業員。学生時代から剣道部で鍛えたという肉體は頑強だったようですが、「あまりに不

慣れな仕事ぶりに上司も見かねたのか、半年後に、飛び込み営業に異動となりました」とニココリ。とにかく屈託がありません。しかし「やっぱり長男なものですから、親のことも気になりました」ととうとう北海道へ帰ってきました。ところが就いた仕事は、今度は水道工事会



での自分に役立っていると思います」とどこまでもポジティブ。世界史の教諭として最初に赴任した網走桂陽高を皮切りに、今はなき厚岸潮見高から札幌南高を経て、北見北斗高の定時制の教頭になります。さらに通信制の有朋高校の教頭を経て、校長となったのが道北の利尻高校でした。この後、室蘭東翔、帯広三条に続いて9校めの任地、校長として4校めとなるのが釧路湖陵です。

社。25歳を迎え、「さすがにこのままではマズイ」と感じたのか、ようやく真面目(?)に教員採用試験の勉強を始め、教員としてのスタートを切ったときには26歳を迎えていたといいます。

ストレートで教員となった同期生から3年遅れてのスタートでしたが、橋本校長は「失敗や挫折を経験し、回り道をしましたけど、それらの経験もみな教員とし

自身、7段(一)の腕前を持つ剣道部の顧問としてこれまで数多くの剣道部員を育て上げてきた橋本校長だけに、伝統ある当校剣道部にも、大いなる期待を寄せています。「進学校の生徒は打たれ弱いといいますが、学問でもスポーツでもとにかく挑戦して、たとえ失敗しても繰り返しチャレンジするような勇気が大切です。いろいろな失敗体験も、必ず人生の糧になります」との言葉は、多くの寄り道・回り道を繰り返してきたご本人の実体験だけに、とにかく説得力にあふれています。進路に悩んでいる生徒は、一度橋本校長に相談してみるのも良いかもしれませんね。

活躍する湖陵生	2~3頁	追悼・米坂ヒデノリさん・佐藤昌之さん	6頁
各地湖陵会だより	4頁	学園だより	7頁
同窓会の寄付で学校の校庭を整備	5頁	当番期だより・SSH発表会・編集後記	8頁
部活動100年	5頁		

目次



藤田社長

伊福部昭評伝を刊行 出版に挑む藤田卓也さん

藤田卓也さん(湖陵18期)は、しにせの「藤田印刷」社長です。社内に「エクスレントブックス」という出版部門を立ち上げました。その最初に仕事で、柴橋伴夫著「生の岸辺―伊福部昭の風景」で、A5判、452頁の大冊です。伊福部昭は釧路生まれで、映画音楽「ゴジラ」などを手がけた作曲家。



初出版の「生の岸辺
～伊福部昭の風景」

筆者柴橋さんは、伊福部家が神宮職の家系だったため、鳥取市(旧国府町)宇倍神社からルーツ探しに着手。昭の父、利三は、明治維新で強制的に失職、北海道へ。釧路生まれの昭は父の転勤に伴われて、網走、音更、札幌と転居を重ねます。旧制札幌二中(現札幌西高)に入学。

佐藤忠良(彫刻家)、船山馨(小説家)ら英才鬼才がきら星のようにおりました。北大農学部に進み、厚岸営林事務所などの林業技官を経て、昭和21年東京芸大―平成9年東京音大退職まで52年間、音楽教育に努めました。教え子に芥川也寸志ら。この間、映画音楽「ゴジラ」などの名作が生まれました。同18年東京で逝去。91歳でした。

出版ののち、全国に散らばった札幌西高OBの反響が相次いだのは「昭和初期の旧制中学の青春が活写されていたからでしょう」。梅雨時の東京を走り回る藤田さんに「北海道の外れにある御社で」

よくこのテの硬いモノを出しましたね」と大型書店「ジュンク堂」関係者から労らっていたのだという。

「我が社はパンのためのライスワークではなく、後世に残るライフワークを重んじる」ためチラシ印刷の仕事は潔くやめたともいいます。

藤田さんという人物を形容するため、今から四半世紀前にはやった「メセナ」という言葉を使いたいものです。「企業は見返りを求めず、文書や芸術に取り組み個人や団体を支援する」という画期的な提案です。

例えば藤田さんが、評論家の辺見庸さん、写真家の長倉洋海さん(湖陵23期)、喫茶ジス・イズ(平成24年廃業)経営者の小林東さん・民子さん夫妻、そしてアイヌ文化を設ける時、彼らが示す高く広い芸術活動、深い人間洞察力を感じざるを得ません。「熱い人です」、この方は。

堀川春昭(湖陵12期)



友弥さん

絵本作家 阪倉友弥さん

(50期) 1998年3月卒業

阪倉さんは、現在、東京で「友弥(TOMOMI)」という名で絵本作家として活動しています。小さいころから漠然と、看護師か画家などの絵に携わる仕事をしたという夢を持ち続けていました。高校卒業後、看護師を目指して釧路市立高等看護学院に入学。資格取得後は市立病院で約6年間看護師として働き、その後、大阪大学医学部附属病院に4年間、東京大学医学部附属病院で3年間看護師として勤めました。絵本作家となり、現在も、派遣の看護師として活躍しており、看護師と絵本作家という二足のわらじを履く活躍を見せています。

友弥さんは、東京大学病院で看護師として働いていた時に出会った、「笑わないう看護師」からインスピレーションを受けて制作した絵本「心の鏡」で2012年3月に絵本作家としてデビューしました。作品では「つらい時、落ち込んでいる時、少しでも笑えるように」という思いを込めています。このほかの作品として、弘法大師空海のエピソードを絵本にした「ソラのあしあと」があります。そして、自身3作目となる作品「リチャ

ードの指輪」が8月5日、ゴマブックス社(東京)から全国一斉発売となりました。

今回の作品は、友弥さんが「人生をかけている」と語るほどの渾身の一作です。今までの2作品とは違い、中高生や大人向けの絵本で、「無償の愛」をテーマに、登場人物のリチャードとミリーが出会ってから50年の軌跡を描いています。普通の、どこにでもある夫婦生活を描いていますが、妻ミリーの何気ない一言や行動が、日常に彩りや幸福を与えていることに、我々読者は気付きます。友弥さんは「親の子どもに対する愛情など、変わらないものにこそ無償の愛があると思うんです。そこを伝えられたらうれしいですね」と話していました。人を愛することの幸せを改めて教えてくれるこの作品。是非手にとって読んでください。

須貝喜治(湖陵49期)



横山了一さん

漫画家

横山了一さん

(49期) 1997年3月卒業

横山さんは、小樽生まれで2歳から釧路に来ました。興津小学校、春採中学校、湖陵高校を卒業後、北星学園大学に入学。大学在学中に新人賞を取り、卒業後、東京に移住。2012に漫画家としてデビューしました。現在は息子1人、娘1人に恵まれ、漫画家と育児を頑張る二児のパパです。育児が本当に大変だったそうで、「息子がなかなかついてくれなかったのが本当につらかった」と振り返っていました。そんな子どもとの育児奮闘記をツイッターなどで発表していたところ大人気となり、「息子の俺への態度が基本的にヒドイので漫画にしてみました」(リイド社)を15年に発刊しています。また、16年3月には、最新刊「北のダンナと西のヨメ」(飛鳥新社)を発刊し、話題を呼んでいます。

「北のダンナ」は、北海道出身の横山さんと、神戸出身で漫画家の妻加藤ユミさんが、地元の常識をぶつけ合うコミックエッセーとなっています。釧路では日常的に見られるエゾシカやタンチョウを珍しがる妻ユミさんや関西独特の言葉や文化に戸惑う横山さんなど、地域の

カルチャーギャップがコミカルに描かれており、釧路の人が読めばクスッと笑えること間違いなし。横山さんは「是非読んでいただいで、共感して楽しんでいただければうれしいです」と話しています。横山さんは、お父さんの影響で小さいころから絵を描いたり、漫画を書いたりしていました。高校3年生の時には、すでに漫画家になるという確固たる目標を持っていたそうです。漫画家になるという夢をかなえた横山さん。厳しい現実がぶつかることもあるそうですが、「自分が考えたものを表現して、楽しんでもらえるのが本当にうれしいです。特に、今はインターネットが中心となってきているので、すぐに反応が来ます。もちろんいい反応ばかりではないですが、作品を評価してくれることが本当にありがたいですね」と話していました。現在も育児漫画をツイッターで発表しています。是非一度横山さんの漫画を手にとってご覧ください。

須貝喜治(湖陵49期)



「高校時代に人間形成ができた」と夏堀さん

クスろ代表

夏堀めぐみさん

(57期) 2005年3月卒業

夏堀さんは、現在、釧路で実家の「ラーメン屋 夏堀」を手伝いながら、市民団体「クスろ」の代表を務めています。クスろは、2014年4月より、「会いにきたい人がいる街、釧路」を全国に発信するというビジョンを掲げ、釧路市で活動をしている市民団体です。会員は、釧路の人はもちろん、元釧路に住んでいた人、釧路ファンになった人などで、20代の若い人たちが中心です。

活動は、ウェブサイトを、釧路について考えるワークショップ、人めぐりツアー、イベントの企画運営。小学校での授業など、「人」が集まり、話し合うこと、交流すること、それを発信することによって入れています。

高校時代の夏堀さんは、ハンドボール部に所属していました。キャプテンも務め、全道大会へ出場したこともありまします。土、日曜日には、練習にOBも参加します。ここで、「大人のひと、自然に交流することを覚えた」と言い、それが現在のクスろでの活動に生きています。学校での思い出は、学校祭での演劇の演出を手がけたことや歌合戦出場、体育祭な

ど、たくさんあるそうですが、好奇心が強く「何でも興味があったので楽しめました」と振り返ります。クラスメイトにも恵まれ「人のことを悪く言うことよりもみんなで楽しむには？」を考え、休み時間にはバレーボール、早弁、おしゃべりなどをし、とことん明るいことに転換していました。人間を形成したのは高校時代かもしれません」と言います。

さて、現役の生徒さんたちを含めて若い人々には、「自分の好きなことだけやりましょう。やりたいことだけで24時間を使いましょう。」とお勧めします。また、高校を卒業すると、進学や就職で釧路を離れる生徒さんが多いのですが、「若い人が釧路に戻って来たいと思った時の為に、おもしろい場所や交流の仕方を用意しておきたい」と考えています。

また、先輩たちには「これまで釧路をつくってきてもらったことに感謝しています。これからも勉強させていただきながら一緒にまちづくりにかかわることが出来ればよいと考えています。」と言います。

星 匠(30期)

東京湖陵会



盛り上がった東京湖陵会

第27回東京湖陵会が、6月18日にホテルポール麹町で開かれました。

西沢みどりさん(湖陵21期)の開会の辞で始まり、黙祷、そして校歌を斉唱しました。正札喜久雄会長(同21期)のあいさつに続き、蝦名大也釧路市長(同29期)、橋本達也釧路湖陵高校校長、島本幸一釧路湖陵同窓会会長(同19期)が、それぞれ祝辞を寄せました。

総会では、会報の年2回の発行、各地湖陵会との交流など、新年度事業などを決めました。また、役員改選も行われ、

会長は、正札さんに代わり、諏訪幹雄さん(同23期)が選ばれました。

懇親会は、松原靖行(同5期)常任幹事の「乾杯」で始まり、最後は稲村尊史(同26期)札幌湖陵会会長、小川清至(同17期)関西湖陵会会長の「三本締め」で閉会しました。

なお、新役員は次の通りです。

- ▽会長 諏訪幹雄(湖陵23期) ▽新▽副会長 三上希予子(同18期)、八幡隆文(同21期) ▽新、割方俊介(同28期) ▽新▽幹事長 本間俊一(同37期) ▽新▽副幹事長 澤田雅弘(同37期) ▽会計長 和泉美紀(同35期) ▽新▽会計監事 野村麻利子(同27期) ▽新、中山紀子(同36期) ▽新

星 匠(湖陵30期)

関西湖陵会

大阪東急REIホテルで今年の関西湖陵会総会は、5月21日に開催されました。出席者が総勢32名となりました。関西在住の同窓生に加えて、遠くからの参加者も合わせ、広く交流、親睦を深めました。

釧路湖陵同窓会からは、蝦名大也釧路市長(湖陵29期)、川向貴子副会長(同29期)、青木一晃幹事長(同27期)、札幌湖陵会からは、浅沼和明副会長(同28期)、畑みゆき幹事(同28期)、伊藤拓摩顧問(同21期)、東京湖陵会からは、正札喜久雄会長(同21期)に参加いただきました。遠路遙々の長旅、

札幌湖陵会

第30回札幌湖陵会が、7月2日にポールスター札幌で開かれました。

定期総会では、物故会員に黙祷をさげたと、全員で校歌を斉唱しました。稲村尊史札幌湖陵会会長(湖陵26期)があいさつ、続いて、来賓を代表して蝦名大也釧路市長(同29期)、白崎義章釧路湖陵同窓会副会長(同28期)、三上希予子東京湖陵会副会長(同18期)、小川清至関西湖陵会副会長(同17期)がそれぞれ祝辞を述べました。議案は、昨年度の会務、会計などが承認されたあと、「会員相互の連絡親睦を図り

且つ母校を応援する」ことを目的とした札幌湖陵会会則、新役員では名誉顧問として一関庶路さん(同11期)が選ばれました。

懇親会は、石井忠雅さん(釧中31期)の乾杯で始まり、会場では高校時代の思い出や、ふるさと釧路のことなど、話に花が咲いていました。

最後に、来年の当番期、湖陵33、34、35期に引き継ぎが行われ、応援歌を歌ったあと、川向貴子釧路湖陵同窓会副会長(同29期)の中締めで閉会しました。星 匠(湖陵30期)



札幌湖陵会で校歌を斉唱する同窓生

誠にありがとうございます。

総会は物故会員への黙祷で始まり、校歌斉唱を行い、小川清至関西湖陵会会長(同17期)の開催のあいさつでスタートを切り、来賓の蝦名釧路市長、川向釧路湖陵同窓会副会長、浅沼札幌湖陵会副会長、正札東京湖陵会会長が祝辞を述べました。

懇親会は前会長の西田 暉至(同7期)さんのあいさつと乾杯でスタートしました。特に催しはありませんでしたが、高級ウイスキー、日本酒の差し入れがありました。が、あつという間に無くなりました。

皆さんのご歓談で予定の時間となり、最後は応援歌を斉唱で締めとなりました。

二次会は同じホテル内のレストランにて有志参加でアルコールを追加し、エネルギーが補給されました。



関西湖陵会に参加したみなさん

来年は5月27日(土)に大阪東急REIホテルでの開催を予定しております。ご参加よろしく願いたします。

林 正樹(湖陵18期)

同窓会より学校へ寄付事業



植栽工事が行われる前庭の樹木

6月28日、栄町アクアホールにおいて開催されました「平成28年度 釧路・釧路湖陵同窓会 合同幹事会」におきまして、青木一晃幹事長（湖陵27期）より

(1) 学校敷地前庭樹木整備事業における植栽工事

(2) 同窓会館横の廃棄残土処理の2事業を、同窓会予算にて行い、学校への寄付行為としたいとの提案がありました。

(1)は現校舎の開校時、学校の敷地フェンスの内側に植栽された樹木が、88本中すでに半数の44本が完全に枯死しているほか、生き残っている木も非常に貧相であることから、この際、樹種を変更して、全面的に

植え替えようというものの。

また(2)は、同じく同窓会館の建設後、産業廃棄物として排出された下水残土が長期間、そのまま山積みとなつて留置され、著しく周辺的美観を損なっているため、こちらも同窓会予算にて撤去処理を行おうというものです。

いずれの工事も、作業が学校側の邪魔にならぬよう、夏休み中に行うことが望ましいということから、夏休み終盤に当たる同窓会総会ではなく、合同幹事会の了承をもって直ちに工事を開始したいとの提案があり、出席幹事全員の賛成をもって了承されました。

西村貞広(湖陵30期)

部活動100年

現在、釧路湖陵高校には多くの部局があります。運動部は、野球、サッカー、バスケットボール、バレーボール、ハンドボール、陸上競技、バドミントン、テニス、ソフトテニス、卓球、スケート、山岳、空手道、柔道、弓道、剣道です。文化部は、器楽、合唱、書道、美術、生物、化学、物理、外国語、家政、茶道、華道、文芸、演劇、写真、音楽研究です。そして応援団・チャリティーディング、放送局、新聞局、図書局です。

部活動はいつからだつたのでしょうか？「誠愛勇の湖陵百年」に歴史が掲載されています。

開校したのは1913(大正2)年です。16(同5)年に、「校友会会則改正 9つの部を正式に設ける」とあります。その9つの部というのが、庶務、雑誌、講演、柔道、剣道、野球、庭球、短艇、相撲でした。ですから、現在ある多くの部で、最初に設けられたのは柔道、剣道、野球、庭球の4つの部です。今年で100年です。

「湖陵百年」から、主な部活動の記述を追っていくと、釧中時代は、1928(昭和3)年「釧路中学校文芸部の機関紙『山脈』が創刊」「全国中等学校野球大会、全道予選3位(北大球場)」「音楽部設立記念演奏会」、32(同7)年「東北道道競技連盟大会で籠球・競技・柔道優勝」、38(同13)年「全国中等学校剣道大会初出場(明治神宮)」です。

湖陵時代は、58(同33)年「アイスホッケー全国初優勝」、80(同55)年「ハンドボール部全国大会出場壮行会」、81(同56)年「バレーボール北海道大会決勝戦で釧路工業に勝ち、優勝(旭川)」「陸上部・合唱部全国大会出場壮行会」、82(同57)年「男子ハンドボール部全国大会出場壮行会」など数多くの活躍の記録が残っています。

今年も7月11日には、生徒会の運営による夏季全国大会等出場部壮行会が開かれ、陸上部、放送局、合唱部、文芸部、野球部、さらに水泳大会に出場する選手にエールが送られました。今後のさらなる活躍が期待されます。

星 匠(湖陵30期)

今年の高校野球北海道大会(旭川スタルヒン球場)、ベスト8まで進んだナイン(釧路新聞社提供)



2 芸術家を音楽葬で送る



湖陵高校にブロンズ像を寄贈した際の記念撮影
ブロンズ像の前に座っている米坂さん夫妻

この春、釧路の芸術活動で大きな足跡を残した彫刻家の米坂ヒデノリさん（併置中2期）、指揮者・作曲家の佐藤昌之さん（湖陵2期）が相次いで亡くなりました。お2人に対して、くしくも生演奏による葬送がしめやかに営まれ、参列者は故人への思いを深くしました。

苦しみ問う米坂ヒデノリさん

最晩年は病氣と闘い入院を繰り返して、4月1日、上
邑紅緒さんら家族が見守る中、帰らぬ人となりました。
49日後の5月18日、ANAクラウンプラザホテル釧路で
持たれた「彫刻家 米坂ヒデノリ先生を偲ぶ」会が、事
実上の葬儀となりました。弔問客がガラスケース入りロ
ソクを灯して、祭壇に供える献灯。桜井敬一さん（湖
陵19期）をはじめ、釧路交響楽団員らがゆつたりとシベ

リウスの「アンダンテ・フェスティヴォ」モーツァルト
の「デイヴェルテイメント」そしてJ・S・バッハの「G
線上のアリア」を厳かに演奏。釧路混声合唱団の石田憲
一さんら3人が、有名な賛美歌「主よ、みもとに近づか
ん」を披露、会場いっぱいにはハーモニを響かせました。
釧路市美術館長補佐の瀬戸厚志さんは「米坂作品にお
ける生みの苦しみ」を指摘。元釧路新聞社編集局の横澤
一夫さん（湖陵5期）は「高校時代から公募展に入選」と
いう偉才ぶりを紹介など180人の参列客の関心を集
めました。

公職、主要作品、受賞歴は省略。代わりに「中学・高
校」期の学歴について、付記します。昭和27年、江南高校
卒（江南2期）―東京芸大進学をもって「江南生え抜き」
に思われがちですが、同21年に旧釧中へ入学、湖陵高校
前身の併置中学校卒業を経て、同25年に新制江南高校に
転入しました（注）。同30年代後半には湖陵の臨時講師と
して後進の美術指導に当たりました。平成24年には湖陵
創立100年を記念して、同窓会（栗林延次会長 当時）
は、米坂さんの手によるフクロウのブロンズ像「コタン
コロカムイ」を寄贈しました。その像は校舎中庭の台座
に据えられ、日夜湖陵生を見守っています。

釧路市民文化振興財団理事長で「偲ぶ会」発起人代表
の杉本義弘さん（湖陵23期）の話 「卒寿記念米坂ヒデノ
リ彫刻展」で、（賛助出品した）子どもたちの絵画から米
坂ヒデノリ賞を、一目で選び出し、先生の芸術に対する
厳しい目と信念を感じざるを得ませんでした。

（注）学歴については、時の学制、学区の断行により、米
坂さんより1年先輩で、旧釧中―併置中学―江南高校転
入と、同氏と同じ進路を余儀なくされた坂上満さん（江
南1期）のご教示によりです。併置中学は過渡期の学制
によるもので、卒業生も同23、24年の2回だけです。

堀川春昭（湖陵12期）

音楽家 佐藤昌之さん逝く

本紙くまざさ前号（平成28年3月1日発行68号）で紹
介された国立北海道教育大学名誉教授の佐藤昌之（湖陵
2期）先生が6月19日に帰らぬ人となりました。84才。
死後に正四位を追贈されました。

市内青雲台葬儀場で音楽関係者らが集まり無宗教式で
音楽葬がしめやかに営まれ参拝者は五線譜がデザインさ
れた祭壇に向かって献花しました。

佐藤先生は北大を卒業後上京し、東京フィルハーモニ
ー交響楽団にホルン奏者として所属、その間ドイツ留学

を経て帰国、余中病を得
て帰釧、昭和40年に当時
の学芸大学釧路分校（現
在は北海道教育大学釧路
校）の教官を務める傍ら、
母校湖陵高校の音楽臨時
講師として教壇に立ち、
同校器楽部の指揮者とし
て暫く指導されました。

佐藤先生は釧路吹奏楽
団、釧路市民吹奏楽団の
結成と発展に力を注ぎ指
揮を執るなど釧路の音楽
家と深く交流を重ね、音
楽界の発展向上に多大な
貢献をされました。また
同人誌「河太郎」の同人
として明治以降の日本音
楽史を寄稿しました。
改めてご冥福を祈りま
す。

田巻恒利（湖陵18期）



同窓生の皆さま、いかがお過ごしでしょうか。湖陵高校ではこの1年間でいろいろなことがありました。湖陵高校の「今」を簡単に伝えします。

2015年

〈8月〉

統一学校説明会

本校体育館を会場にして行われる湖陵高校進路指導のビッグイベントです。道内外から70を超える大学・短大・予備校等の事業所などが参加して行われました。生徒たちは各大学のブースに積極的に足を運び、熱心にお話を聞いたり質問していました。一つの高校が主催して多くの大学に参加していただくというスタイルは最近でこそ他校でも見かけるようになりましたが、実は湖陵高校が最も長い歴史を持つのです。今年も8月26日に第14回が予定されています。

〈9月〉

新人戦・高文連

多くの部活動が素晴らしい成績を収めました。特に合唱と文芸は

見事に全国大会の出場権を手に入れました。

〈10月〉

見学旅行

10月17日から2年生が2班に分かれて見学旅行に出かけました。京都、奈良、そして東京への4泊5日の旅行でした。行く先々で普段は目にすることのない日本文化に触れ、多くのことを吸収できる有意義な旅行になりました。

2016年

〈1月〉

センター試験

220名の生徒が北海道教育大学釧路校と釧路公立大学に分かれて受験しました。受験率は約93%であり、過去にはない高い数字です。多くの先生方が会場まで激励にかけてくれました。

〈3月〉

第68回卒業式(1日)

237名の生徒が湖陵生としての誇りと夢を胸に抱いて学舎を巣立ちました。そしてこの瞬間、われわれ同窓会の仲間入りです。

高校入試(3日)

例年通り普通科5間口、理数科1間口の募集です。理数科では推薦入試も行われています。希望者

全員が合格できればよいのですが、今年は昨年と比べて倍率も高くなり難関だったようです。

大学合格発表

3年間の学習の成果が実り、多くの生徒が合格を勝ち取りました。特に本校生徒の多くが希望する国公立大学には120名が合格するという快挙を達成できました。

教職員異動

宮下校長を始め11名の教職員が異動またはご退職されました。転出された皆さんには在籍期間の長短はあるものの、それぞれが湖陵高校のために大きな力を尽くしていただきました。本当にありがとうございました。

〈4月〉

教職員異動

橋本校長を始め11名の教職員が着任されました。どうぞよろしく願います。

入学式(8日)

243名の新入生が夢と希望を持って湖陵高校に入学しました。湖陵で多くのことを学び、社会へと羽ばたいてくれることを期待します。

宿泊研修

1年生全員で研修を深めました。場所は川湯第一ホテルライカスラ忍冬です。湖陵での学習方法について学んだり校歌練習をしたりと、湖陵71期生の本格的な高校生活がスタートです。

湖陵の日

P.T.A総会と授業参観、進路講演や学級懇談などを併せて毎年4月の第4土曜日に行われています。夜はキャッスルホテルに会場を移して、懇親会が開かれました。教職員と保護者で合計66名が参加して、懇親を深めました。

〈5月〉

教育実習

4名の卒業生が大学を離れて現場での実習を経験しました。生徒にとっては年齢の近い先輩であり、新鮮な気持ちで授業に取り組めたようです。

高体連・高野連釧路支部予選

3年生にとっては最後の大会で、みんな全力で戦ってきました。多くの運動部が団体または個人で全道大会出場を果たしています。野球の支部予選決勝では全校応援がありました。対戦相手は武修館高校という強豪校でしたが、見事に大勝利です。

〈6月〉

高体連等全道大会

陸上(女子リレーおよび個人)・放送(NHKコンクール)・水泳が全国大会への出場を果たしました。また女子ハンドボールと男子弓道団体も全道3位という素晴らしい結果を残しました。

〈7月〉

湖陵祭

行灯行列やクラス対抗の歌合戦、3年生によるクラス演劇など、湖陵祭の伝統は引き継がれています。特に行灯行列では同窓生の皆様を始め、多くの市民の方々に応援していただきました。本当にどうもありがとうございました。

以上で1年間の報告とさせていただきます。今後とも母校と後輩たちのために、どうぞよろしくお願いいたします。

田中嘉寛(湖陵36期)

訂正

くまざさ50号(平成19年8月発行)の8頁、編集後記で村上藩主の日記に「子飼の真鶴」を丹頂鶴としましたが、当時少ないながら真鶴は道南に生息していたので訂正します。市立釧路博物館の講演(久井貴世講師)から判りました。

田巻恒利(湖陵18期)

SSHで研究発表



子ども遊学館で行われた発表会
(釧路新聞社提供)

釧路湖陵高校理科の3年生41人は7月9日に、釧路市子ども遊学館で「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」として研究してきた成果を発表しました。

SSHは、文部科学省が指定をし、大学や研究機関などを連携して科学技術系人材の育成のために、学校で独自のカリキュラムをつくり、さまざまな研究をするシステムです。

課題の発表は、数学、物理、化学、生物で、生徒たちが探求テーマとして選んだ14項目について成果を報告しました。テーマは、「チューイングガムを用いた壁を登る方法について」など。コオロギを使った研究では「匂いに対する昆虫の足の出し方について」をテーマにした2人の生徒は、コオロギの触角を右か左かどちらが残した場合に、差し出す足が右か左かということを根気よく実験を行った成果を発表しました。

星 匠(湖陵30期)

当番期だより

平成28年度釧中・釧路湖陵同窓会総会幹事であり、我々44期は、平成元年の入学です。永きに続いた昭和の歴史に終止符が打たれ、新たな年号が始まった記念すべき年でありました。歴史ある富士見校舎から、緑ヶ岡校舎への移転をはじめ、平成になってからの湖陵高校を取り巻く環境の変化は大きなものだと思います。この文面にペンを走らせましたが、ふと「自分が入学する前の湖陵高校の歴史はどんなものだったのか?」と思い、インターネットで検索してみました。そこには、圧倒されるほどの湖陵高校の激変の歴史が・・・。それだけの変化をもたらすには、大変な労力、大きな力が必要なはず。改めて、当時の先生達、在校生、そして諸先輩方が作り上げてきた同窓会の「絆」によって作り出された変化だったのだと感銘を受けました。

今後、湖陵高校には大きな変化が訪れることでしょう。そこには、かつて諸先輩方が担ってきたであろう役割を、今後は我々も担い、それをさらに後輩達へと繋げていく「絆」が必要。今回の同窓会で、その「絆」がまた一段と強固なものになると確信しております。

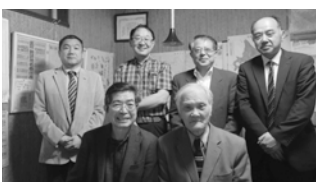
このたびの総会が皆さまにとって例年どおり穏やかで意義深いひとときとなりますよう。私たちは、ともに平成の時代に高校生活を送った45期に確実にバトンを渡します。釧中・釧路湖陵同窓会をますますの発展と、釧路湖陵高校の一層の飛躍を心より祈りつつ。

西池 聡(湖陵44期)

編集後記

この度くまざ編集委員会の仲間に入れていただきました湖陵高校の田中です。長い間委員をお務めになられていた澁谷倫之先生がこの春ご勇退されましたので、代わりに私がその任を引き受けさせていただきますことになりました。湖陵高校には昨年度から全日制教員として勤務しています。自分が学んだ昭和時代の湖陵高校はまだ富士見にありました。現校舎にはほとんど馴染みがないのですが、何年経っても変わらない校歌や制服に自分の「母校」を感じております。あまり真面目に高校生活を送ることもなかった自分ですが、これからは母校で勤務できるという誇りを胸に持ちながら、生徒(かわいい後輩たち)とともに歩んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

さて、つい先日のことです。札幌に住むひとりの友人が訪ねてくれました。



(前列左から)田巻恒利、堀川春昭(後列左から)田中嘉寛、西村貞広、佐藤文昭、星匠

高校時代のクラスメイトです。高校卒業後に札幌の大学で学び、そのまま札幌ですと暮

らしています。実家は阿寒にあるものの、帰省してきてもなかなか釧路市内まで足を伸ばせないとのこと。車で富士見の旧校舎跡地(現ハローワーク・道職員住宅)に案内しました。そして現湖陵の校舎や同窓会館も見てもらいました。懐かしい展示物にとっても喜んでくれましたし、いろいろなことを思い出した後の我が家での酒盛りは大いに盛り上がりました。やはり青春時代を過ごした母校は特別なですね。田中嘉寛(湖陵36期・湖陵高校教諭)

釧路湖陵高校

〒085-0814
釧路市緑ヶ岡3丁目1番
TEL(0154)43-3131
ホームページ
<http://kushiro-koryo.hpinosek.co.jp/>

くまざ編集委員会

- 同窓会会長 島本幸一(湖陵19期)
- 同窓会計長 佐藤文昭(湖陵22期)
- 編集委員長 星 匠(湖陵30期)
- 編集委員 川端紀一(湖陵11期)
- 編集委員 堀川春昭(湖陵12期)
- 編集委員 田中嘉寛(湖陵36期)
- 編集委員 西村貞広(湖陵30期)
- 編集委員 須貝喜治(湖陵49期)
- 編集事務局長 田巻恒利(湖陵18期)

くまざ編集委員会

〒085-0014
釧路市末広町2丁目4番地
TEL0154(23)0241
手動切替FAX
0154(23)0242
栄屋旅館内